

## 024 川での注意点(主催者や大人が対応するリスク管理)

- 川では浅くてもおぼれる可能性があります。フローティングベスト(ライフジャケット)を必ず着用しましょう。
- ひざ下より深い場所は、流す力が強く、おぼれる可能性が高いため、絶対に入らないようにするなど事前に強く注意しましょう。
- 川では浅いところから急激に深くなっている場所が多いです。そのため、観察会前に大人が川を視察して深い所を知っておくと事故防止に大変役立ちます。深い所が観察会予定地にある場合は、大人が深い側に入るかロープを張り、子どもたちが深い方にいかないように観察会前にセッティングするなど特に注意しましょう。
- 流れが速いとひざ下より浅くても足を取られておぼれてしまう可能性がありますので気を付けましょう。
- 現地で雨が無くても上流で雨が降ると突然増水することがありますので、水位や水の濁り状況に気を付けましょう。
- 川底は滑って転びやすいので気を付けましょう。
- 日差しと水面反射による熱中症に気を付けましょう。必ず帽子は着用しましょう。
- ヘビやハチなど危険な生物が水辺や水辺林にいますので、大人が先導してヘビやハチなどがいないか確認して移動しましょう。
- プールで泳ぎがうまくても、川の場合は、流れと波でバランス感覚を失うことがありおぼれやすいです。流されたときは、力を抜いて浮かび、流れに逆らわないで岸に流れ着くようにしましょう。
- 川でおぼれてもバタバタと音がしないで静かに沈んでしまうことがあります。観察会では確実に人数を把握して、定期的に人数を確認するようにしましょう。
- 川でおぼれた人を救護するときは、むやみに飛び込むと二重災害の危険があるため、まずロープや棒などを使い助けるようにしましょう。事前にロープ付の浮き輪などの用意があるとよいです。
- 熱中症やケガ、虫刺されなどのために事前に観察会の場所に日陰の休憩救護場所を用意しておくなど備えておきましょう。
- 禁漁期に魚や卵を観察する場合は、「特別採捕許可」が必要となる場合があります。詳しくは、滋賀県農政水産部水産課までお問い合わせください。

<川遊びの安全に関する参考資料>

公益財団法人河川財団(2018)水辺の安全ハンドブック川を知る。川を楽しむ

[https://www.kasen.or.jp/Portals/0/pdf\\_mizube/mizubehandbook2018-1.pdf](https://www.kasen.or.jp/Portals/0/pdf_mizube/mizubehandbook2018-1.pdf)